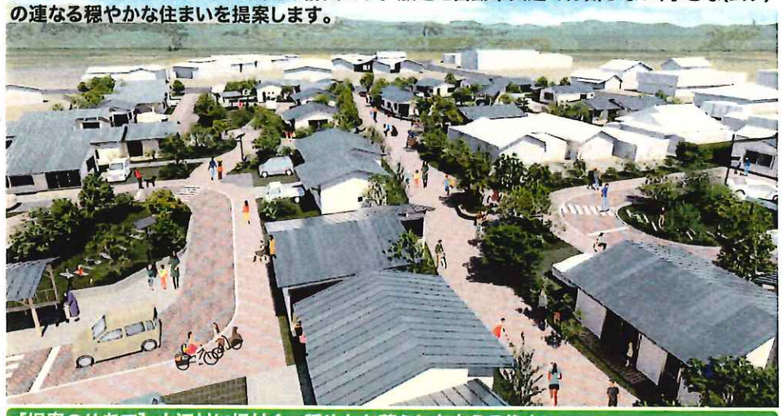
小さな〈ムラ〉の連なりによる住宅団地

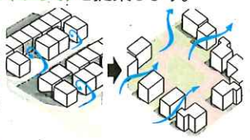
「いろいろな人が住んでいるからこそ、ほど良い距離感を保ちたい」「何かあったときのためにも、ふだんからのご近所付き合いは大切」—山江村での暮らしにふさわしい、緩やかな「抜け」と「まとまり」をもつ住宅団地の計画です。敷地を自動車交通で分断しない、小さな〈ムラ〉の連なる穏やかな住まいを提案します。



【提案のめあて】山江村に根付く、穏やかな暮らしを支える住まい

・豊かな水量で農地を潤す山田川と、美しく澄んだ清流の万江川—2つの河川がもたらす豊かな自然のもと、山江村の人びとは穏やかな暮らしを営んできました。こうした暮らしを支え、次の世代に引き継ぐために、私たちは村の地域性を活かした3つの〈めあて〉を提案します。

1. 山江村に馴染む、ほど良い距離感（環境・配置）



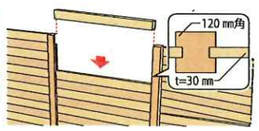
・連棟型の林田団地・新寺の下団地に替わり、それぞれの住戸を独立して配置します。住戸どうしに間隔を設けて光や風を十分に採り入れるとともに、小さな〈ムラ〉的な住戸のまとまりによって、お隣さんとの「ほど良い距離感」が生まれます。

2.住み替え/暮らし変えに柔軟に対応できる間取り(平面)



・1R,2DK,3LDKなどの豊富なプランにより、単身者から家族まで様々な人が暮らせます。家族構成の変化に応じた「住み替え」や小さな作業場/お店をもつなどの「暮らし変え」に対応でき、柱の少ない丈夫な構造により間取りを柔軟に変更できます。

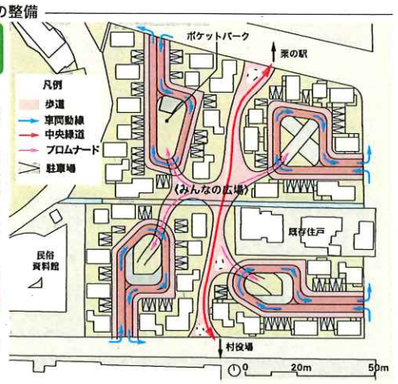
3.安全・安心で長く住み続けられる住まい(構造 / 構法)



・県産流通製材（スギ）を用いた在来軸組工法による平屋です。地域工務店により十分に建設可能で、安価かつメンテナンスしやすい建物になります。木を豊富に使い構造的に安定する〈板倉造り〉とすることで、室内には木の温かみが溢れます。

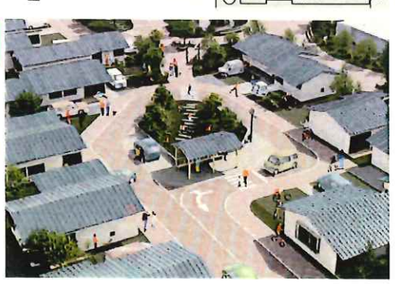
②周辺環境への調和とコミュニティ創出に配慮した住環境の整備

周辺施設や宅地と緩やかにつながる〈セミ・クルドサック〉による動線計画



・自動車の通過動線を避けたセミ・クルドサック（準袋小路）型の動線とします。各住戸に隣接する駐車場に自動車でアクセスできます。
・歩行者は、敷地内を南北に横断する中央緑道と、ポケットパークどうしを結ぶプロムナード（散策路）により敷地内を自由に歩き回れます。中央緑道の中心には、団地住民が気軽に集まれる〈みんなの広場〉を設けます。
・敷地北側の地域振興拠点「栗の駅」と南側の村役場を繋ぐように、誰でも通り抜けできる中央緑道を設けます(緊急車両の通行可)。
・敷地東側の宅地や敷地に食い込む形の既存住戸と馴染む様に、植栽を適度に配置します。

安全・安心な暮らしを育む、小さな〈ムラ〉の連なりによる住戸配置



・住戸どうしに間隔を設けて光や風を十分に採り入れ「抜け」をつくるとともに、6〜12軒程度からなる小さな〈ムラ〉的な「まとまり」をつくります。独立感と連帯感を併せもつ、ほど良い距離による居住空間となります。
・ロータリーの内側には、ポケットパークを設けます。調整池を兼ねた小さな窪みや小高い丘、東屋やウッドデッキなど、それぞれ異なる特徴をもつコミュニティの庭にします。

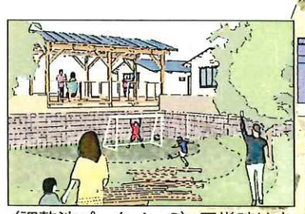
車路と歩道、外構には段差を設けず、全体が滑らかにつながる段差の無い外構計画

車路や歩道には、蒸発時の気化熱で路面温度を下げつつ雨水流出を抑える、保水性インターロッキングブロックを採用

植栽ブロックにすることで緑豊かな景観を作り、夏の照り返しや水たまりを防ぐ



〈丘パーク〉普段は見晴らしの良い憩いの場となり、緊急時には一時避難の場となる。



〈調整池パーク A・B〉平常時は小公園として、雨天時は調整池として機能する。

種類	戸数
公営住宅 DK(約30㎡)	計 6戸
公営住宅 2LDK(約50㎡)	50A 12戸 50B 5戸 50C 9戸 計 26戸
地域優良賃貸住宅 3LDK(約85㎡)	85A 2戸 85B 2戸 計 4戸

・住戸タイプと戸数



・発災時の炊き出しスポット



・日常時の防災フェス

〈防災パーク〉防災拠点として整備したポケットパーク。災害時には、支援物資の配給やかまどベンチを利用した炊きだしスポット等により、団地内の災害復旧拠点として機能。敷地内にソーラーパネル外灯やマンホールトイレも設置。
▼ 日常時には防災フェスの会場となるなど、フェーズフリーに活躍。

住戸平面計画についての提案

①安全で快適に過ごすことができ若者の定住につながる住環境の整備

入居者が快適で安全・安心に暮らせる多様な間取り

- 様々な人びとが暮らすことができるように、多様なプランを用意します。単身者向けの1R、若い夫婦や高齢の夫婦向けの2DK、子育て世代向けの3LDK等のプランを想定します。
- 玄関土間のテラス窓から住戸にアクセスします。窓越しに屋内の様子がチラリと見えることで、ご近所さんどうしの見守り効果があります。
- 各住戸に隣接する駐車場には 1 台分に屋根を架け、屋外空間としての利用や将来的な拡張に対応しやすくします。
- 地震に強い平屋とします。大規模災害時に、万が一車中泊を強いられることになっても、駐車場と住居が隣接しているため安心です。



・開放的かつ木質系で温かみのあるインテリア

子育て世代等の定住促進につながる多様で可変的な平面計画

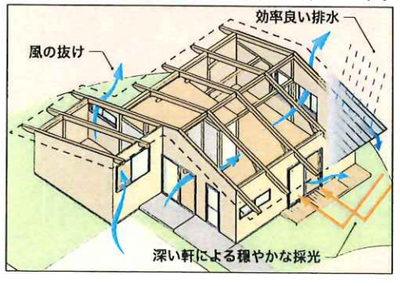
- 結婚や子どもの成長といった家族構成の変化に応じて、30,50 ㎡の住戸から 85 ㎡の住戸への「住み替え」も想定した間取りとします。
- 50 ㎡の住戸と 30 ㎡の住戸を隣接させることで、将来的には増築により一体的に使用できるようにします。
- 将来的にリビングをミニカフェや仕事場に変更する「暮らし変え」にも対応可能です。
- 居室間の間仕切りは非耐力壁とすることや、柱は少ないものの丈夫な構造とすることで、将来的な間取り変更に柔軟に対応できます。

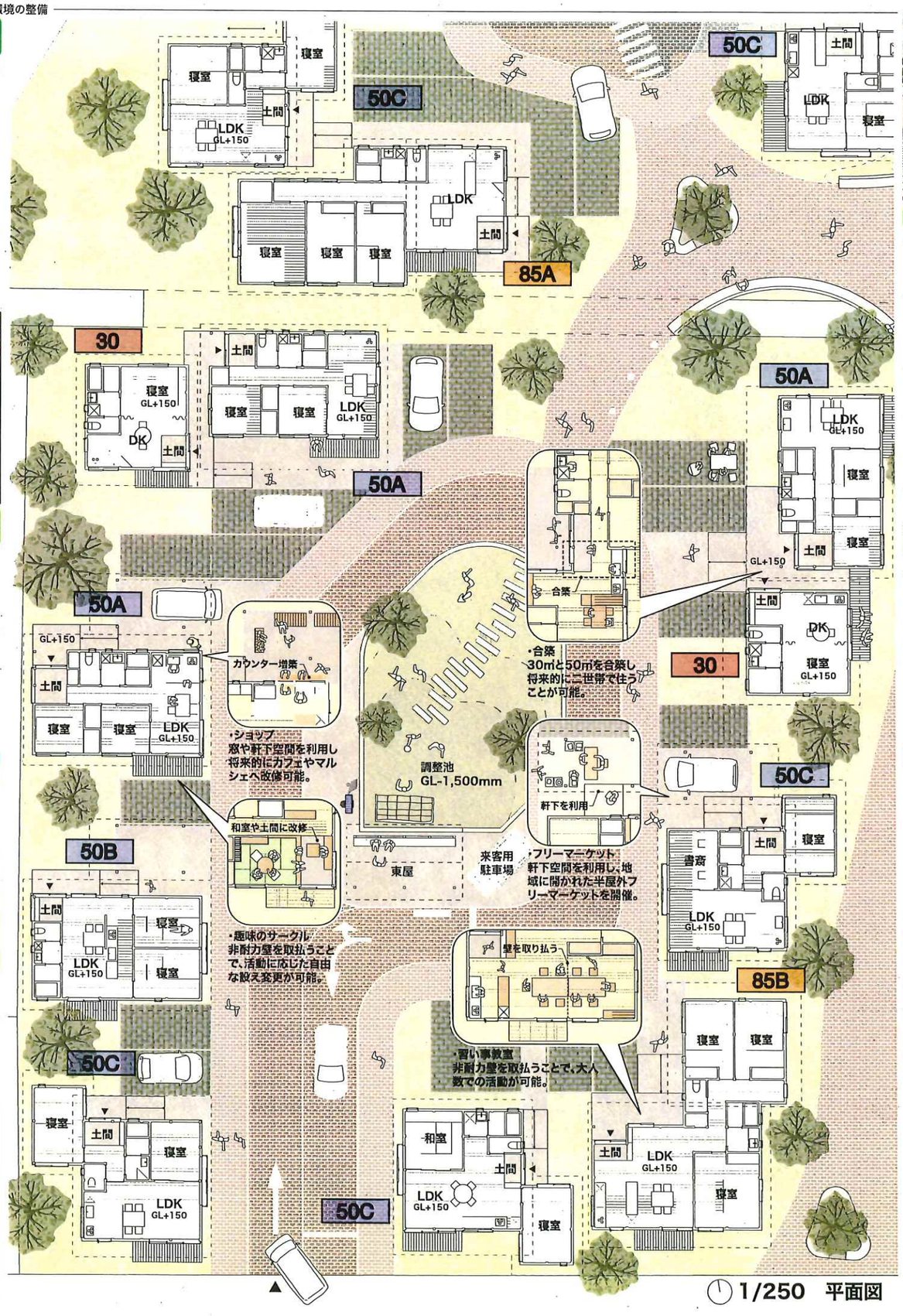


・屋根付き駐車場を利用して将来的にはカフェを開業

南九州の気候と暮らしに対応する住戸

- 南九州地域の伝統的な〈二棟造り〉を参考に、各室に光と風を取り入れやすくしつつ、小さな屋根を組み合わせることで雨を効率よく排水します。
- 空間を 2 つに緩やかに分けることで、家族構成の変化や在宅勤務、作業場、小さなお店など、多様な「暮らし変え」に柔軟に対応します。





1/250　平面図

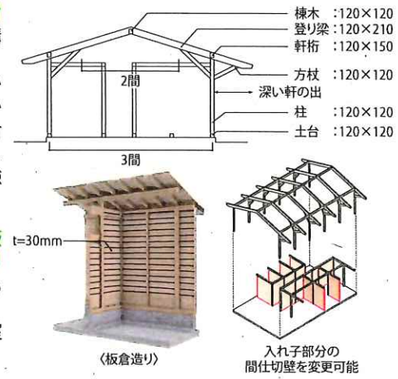


・栗の駅側からの眺め　中央緑道とポケットパークのつながりが人びとの滞留を生み出す

③県産木材を積極的に活用した住環境の整備

県産流通木材をふんだんに利用する構造計画と〈板倉造り〉による内装の木質化

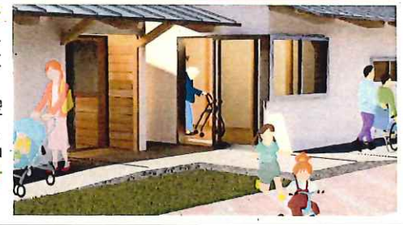
- 住戸には 4 寸 (120 ㎜) 角、材長 3、4m の製材を主に使用し、地元の工務店で施工可能な構造計画とします。
- 梁間（スパン）の大きい部分には、方杖を用いて梁間を小さくする工夫をします。また、長い部材が必要となる箇所には、流通材を組み合わせた〈重ね梁〉等を用いることを検討します。
- 深い軒の出により、木造躯体及び外壁を強い日差しや雨風から十分に保護します。
- 柱の間に厚さ約 30 ㎜の板を落とし込む〈板倉造り〉とします。地震時の横揺れに粘り強く抵抗し構造的な安定性を確保するとともに、低炭素化を推進します。
- 調湿や断熱の効果が見込めると同時に、室内に木の暖かい印象を与えます。



④ユニバーサルデザインに配慮した計画

バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した外構・平面計画

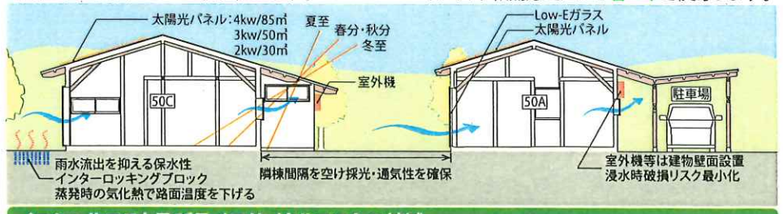
- 〈段差のない外構〉車路と歩道、外構には段差を設けず、全体が滑らかにつながる外構計画とします。駐車場を住戸へのアプローチと一体的に計画することで、できるだけ幅を広く取ります。
- 〈ゆとりある住戸寸法〉玄関土間から内部空間へと、段差なくつながる平面計画とします。また、廊下、出入口、水回り、トイレ等を中心に、車椅子でも使いやすい、ゆとりある寸法を心掛けます。



⑤環境配慮・省エネ・コストを考慮した計画

環境負荷の低減・自然エネルギーの活用

- 開口部を多く設け中間期の自然換気など、機械に頼りすぎない空調設備計画とします。
- 建設コストを見据えつつ、照明電力を担える程度の太陽光発電の導入を検討します。
- 深い軒の出により室内に入る直射光を制御します。室外機等は建物壁面に設置することで、浸水時の破損リスクを最小化します。
- 南側の 2 つのポケットパークは芝生を植えた窪地とします。日常時は小さな公園として、また降水時は調整池として機能します。
- 車路や歩道は、蒸発時の気化熱で路面温度を下げつつ雨水流出を抑える、保水性インターロッキングブロック舗装とします。
- ハイブリッド給湯方式による省エネを検討します。



イニシャルコスト及びライフサイクルコストの縮減

- 木材を積極的に使い、部材の種類を限定した既成金物による在来軸組工法とします。コストダウンを図るとともに施工管理の煩雑さを抑え、十分な耐久性を保ちつつ、地域工務店の技術で施工できる計画とします。
- 住戸プランをタイプ化し、建設要素の種類を限定することでコストダウンを図ります。
- 高効率・汎用型機器を導入し、イニシャル / ランニングコストの縮減を図ります。竣工後のメンテナンスが容易で、経済性に優れた設備計画とします。
- 手入れが容易な樹種を中心に、植栽を選定します。

意匠全般	使用建材やメーカーの統一により工費低減を図る。 反復性のある柱割を活かした建具・割付等の規格の統一化を図り施工管理の煩雑さを押さえる。
構造	地元産中小径材及び既製金物を使用した木軸在来工法とすることで、地域の材料や技術を活かしつつコスト縮減に務める。 設計時から地域の林業・製材関係者にヒアリングし、納期の適正化を図る。 構造体及び外壁の保護のため、深い軒先及び保護塗装等を行う。
設備	自然エネルギーを最大限利用した省エネ化、及び太陽光発電による創エネにより高効率化を図りランニングコストを低減。 イニシャルコストを抑え将来の設備改修を容易にするため、汎用型設備機器を積極的に採用する。

概算工事費：　920　百万円